

逃げない人生

——困難の先にある幸せ

茨城県

小倉 礼子
おぐら れいこ
さん

(52歳)



「自分の体験を伝えることで一人でも多くの人に幸せになってもらいたいです」と小倉さん

私の昔の記憶に父との良い思い出があります。父は真面目で、人一倍働き者でしたが、母にはとても厳しい人だったのです。父は毎晩のように母を怒鳴りつけ、食卓のテーブルをひっくり返すことも日常茶飯事でした。一度説教が始まると2、3時間は続き、母は自律神経失調症を患ってしまいました。私にはそんな母をどうしてあげることもできず、いつも、部屋の隅っこで怯えていたのです。

父親に厳しく育てられた小倉さんが選んだ結婚相手は、父親とは正反対の優しい人だった。だが、息子さんが引きこもりの生活を送るようになると、ご主人もかつての厳しい父親のように変わってしまう。そんなご主人の姿から、小倉さんは父親の思いに気づいていく。

思春期になると、父は私に対しても厳しくなりました。常に命令口調で、ああしろ、こうしろと言います。私はそんな父のことが大嫌いでしたが、母が靈友会に入会すると家の中が少しずつ変わり始めました。母は父に尽くすようになり、父も変わり始めたのです。



令和元年の弥勒山大祭で体験発表をする小倉さん

そんな両親の姿を見て、私も自分でお経をあげるようになりました。そして、青年部のつどいや弥勒山行事にも参加をするようになり、青年部活動が大好きになつていつたのです。青年部の仲間はとても優しく、困っているといつも相談に乗ってくれました。

酒とパチンコ 夫には二つの癖が

23歳のとき、つき合っていた彼を導き、一緒に「青年の弥勒山セミナー」に参加しました。彼は父とは正反対の人で、ユーモアもあり、いつも優しくしてくれました。この人となら幸せになれる。そう思つて結婚したのは26歳のときでした。

と、「幸せになれるかどうかは、礼子ちゃんしたいなんだよ。真剣に教えに取り組めば、必ずいい結果がもらえるから」と言われ、私は靈友会の教えにかけてみようと思いました。

毎日お経をあげ、導きを実践していくました。つどいや弥勒山行事、七面山修行にも参加をして、寒行の時期には水をかぶつて念願しました。それでも、夫のパチンコ通いはなかなか直らなかつたのです。

すぐに長女が生まれ、長男、二男と三人の子に恵まれました。すべてが順調にいくかのように思われましたが、夫には癖が二つありました。一つは大酒飲みで、もう一つはパチンコが大好きだったのです。

あとで分かつたことなのですが、夫には結婚する前からの借金がありました。夫を問い合わせると、「もう二度と、借金はしない」と約束してくれたので、私は独身の頃から貯めていた自分の預金を全部返済に充てました。それから少しづつ夫の酒を飲む量は減つていきましたが、パチンコ通いはなかなか直りませんでした。

結婚7年目で、 ようやく すべての借金を返済

こんなことを知つたら、父は怒るだろうなど思つた私は実家を頼ることもできず、いつも相談に乗つてもらつていた支部長に話を聞いてもらつことにしました。すると

せ孔子が正しいんだよ」「悪いのは俺さ」夫と話し合いをしようとする、「どう

と、いつも捨てゼリフを吐かれました。夫にパチンコをやめてほしいだけなのに、その思いが通じず、私は「自分はこんなに頑張っているのに……」と、いつも心の中で夫を責めていました。

お経をあげてもだめ、水をかぶつてもだめ、どうすればいいのと思つていた頃、長女の千歳が小児喘息になりました。治療を受けてもなかなか良くならず、どうしたらいいんだろうと心配は募るばかりでしたが、弥勒山に連れていくと不思議と千歳の症状は落ち着くのです。

そんな娘の姿を目まの当たりにして、私も夫も驚きました。夫に「これは私たち夫婦に問題があるのかもしれない。何か気づきなさいということなのかも」と言うと、自分から進んで支部の行事や弥勒山行事など

ちと話していると、ご主人の不満や愚痴ばかり聞かされます。以前、支部長から「会員さんは自分を映し出す鏡なんだから、そこから自分の足りないところに気づきなさい」と言われたことがありましたが、それがこれなんだと思いました。

私は「自分は正しい。自分は一生懸命やつていてる」と思つばかりで、夫へ感謝することができませんでした。だから、夫に何を

言つても分かつてもらえなかつたのだと、このとき気づくことができたのです。

夫に感謝の気持ちを行動と言葉で伝えるようになつて、気づくと、夫はパチンコに行かなくなつていました。そして、結婚7年目で、ようやく借金もすべて返済することができたのです。

しかし、私にはもう一つ乗り越えなければならない問題がありました。それは父のことです。父は6年前に他界していますが、父への思いが間違つていたと知ることになつたのは、長男・義晴の姿を通してでした。

息子は親の期待に応えて、高校は公立の

にも参加をしてくるようになりました。すると、夫が徐々に変わり始めたのです。パチンコに行く回数も減りだし、私の話にも耳を傾けてくれるようになりました。そして、「自分たちの夫婦関係が娘を不安にさせていたのかもしれない」と話してくれるようにもなりました。

ちょうど同じ頃、私にも気づくことがありました。導きをしていく中で会員の人た



家族旅行で。右はご主人の義行さん。
左は二男の大地さん



左から小倉さんの母親。長男の義晴さん。長女の千歳さん。

進学校に入学。大学にも合格して、私も夫も安心していたのですが、私たちの期待が重過ぎたのかかもしれません、大学1年生の途中から学校に行かなくなり、引きこもるようになってしまったのです。

夫はそんな息子に厳しく接しましたが、私は学校に行かない息子の気持ちも分かりました。その頃の夫は昔の父のようで、息子は父親に逆らうことができずに、自分の気持ちも話せないでいました。私と父との関係もそうでしたから、今の息子も同じなんだと想えるのです。

私は息子に寄り添い、いろいろと話を聞いてあげました。近所の目があるので、毎晩1時間、息子と夜の街を散歩しました。息子は、私にだけは父親への気持ちを正直に話してくれます。最初はいつも黙つて話

を聞いてあげるだけでしたが、ふと、こんな考えが浮かんできました。「父も今の夫のように、子どものことを心配するあまりに、私に厳しく接していたんだろうな」と。そう感じた私は、お経をあげながら、父に謝りました。「お父さんの気持ちに気づいてあげられなくて、ごめんね」と。

私は夫とも話し合い、「一人で息子の話に耳を傾けていこうね」と伝えました。そして、息子のことを念願しながら、自分なりに修行に取り組みました。

そんな私の姿を見て、夫も少しずつ変わりだしました。特に変化を感じたのは「七面山修行」から帰ってきてからで、息子の話にも耳を傾けてくれるようになったのです。

私と夫の気持ちがそろうと息子も変わり始めました。大学は辞めざるを得ませんで

したが、アルバイトを始めたりと、少しずつ社会に復帰できるようになりました。今年の3月からは正社員として地元の企業で働いています。

人生にはいくつもの試練が訪れるものですが、父との過去から逃げ、夫から逃げていたら、今の幸せはなかつたと思います。私は会員の人たちにも、この自分の経験を伝え、次の一步が踏み出せるように、一緒にこの靈友会の教えを実践していきたいと思います。

『あした21』2020年10月号から

2020.12 発行
靈友会